

南予地域柑橘農業復興対策チーム

第17回会議 資料

1	園地復旧について	
(1)	原形、改良復旧の取組及び営農再開状況	1
(2)	再編復旧の推進	2
2	営農支援策について	
(1)	労働力確保対策	6
(2)	早期成園化に向けた取組み	7
(3)	復旧園地における穴掘り機の選定	9
3	温州みかんの生産販売状況について	10
4	その他	
(1)	「紅プリンセス」の商標について	11
(2)	紅プリンセス産地化進捗の概要	13
(3)	傾斜園地作業効率化モデル整備事業	14

1 園地復旧

(1) 原形、改良復旧の取組及び営農再開状況

・ 9月末進捗状況 完成率 約7割 96箇所/147箇所 (5.9ha/11.0ha)

・ 今後の営農再開見込み 49箇所、 5.1ha

※植栽想定苗本数(品種は農家聞き取り、本数は想定数)

早生温州 約1,000本(2年生苗)

南柑20号 約1,300本(2年生苗)

ポンカン 約 600本(2年生苗)

その他 約 400本(2年生苗)

(愛媛果試第28号(紅まどんな)・伊予柑・ブラッドオレンジ・河内晩柑など)

・ 改良復旧河内地区一復旧園地における穴掘り機を活用した植付実証(R4.9月)



・ 管内の原形・改良復旧進捗状況(9月末)

工法区分	原形復旧		改良復旧		計		営農再開 可能件数			
	件数	面積 (ha)	地区 ※2	面積 (ha)	件数 ①	面積①' (ha)	件数 ④	面積 ④'	④/① (%)	④'/①' (%)
宇和島市	145	9.62	2	1.41	147	11.03	96	5.89	65.3%	53.4%
宇和島市以外	165	31.41	1	1.37	166	32.78	166	32.78	100.0%	100.0%
計	310	41.03	3	2.78	313	43.81	262	38.67	83.7%	88.3%

再編復旧「玉津地区」

概要

【地区概要】

園地の緩傾斜化と排水機能を備えた農道や園内作業道を整備し、担い手に農地を集積するほか、主力品種の温州みかん（南柑20号等）に加え、有望品種の紅プリンセスを新たに導入することで、担い手の所得向上や周年供給体制の強化を図り産地の底上げに繋げる。

【事業概要】

- ・事業名 農地中間管理機構関連農地整備事業
- ・事業費 491 百万円
- ・受益面積 6.8 ha（白浦工区：2.4 ha、法花津工区：4.4 ha）
- ・工期 令和2年度～令和7年度（予定）
- ・主要工事 区画整理 6.8 ha (参考) 事業実施スケジュール



地区名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	営農再開
①玉津 <small>たまつ</small>	計画 策定	機構関連事業						換地処分	R6年春 (一部園地)
		測量設計	区画整理工事						
②立間 <small>たちま</small>	構想 作成	畑総事業						換地処分	R7年春 (一部園地)
		計画 策定	測量設計	区画整理工事					

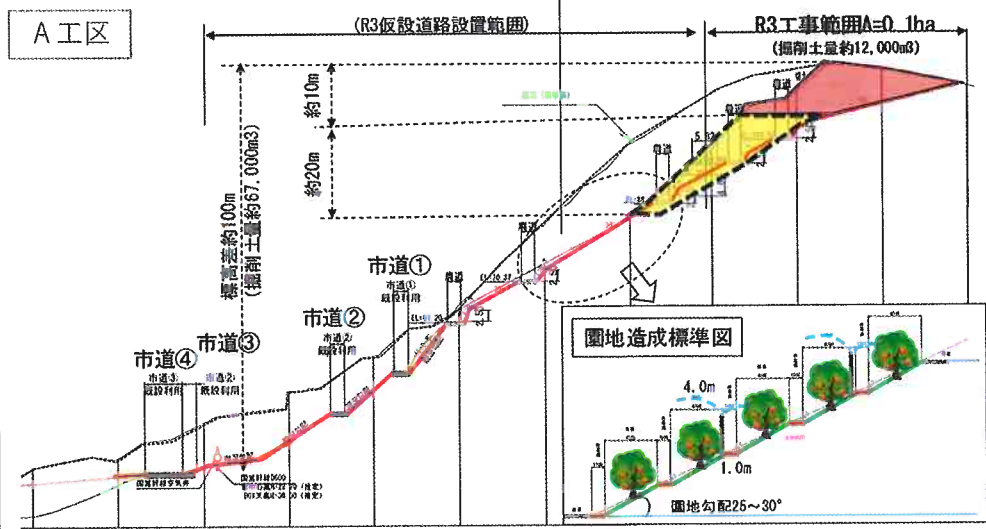
整備構想図



整備構想図



断面図

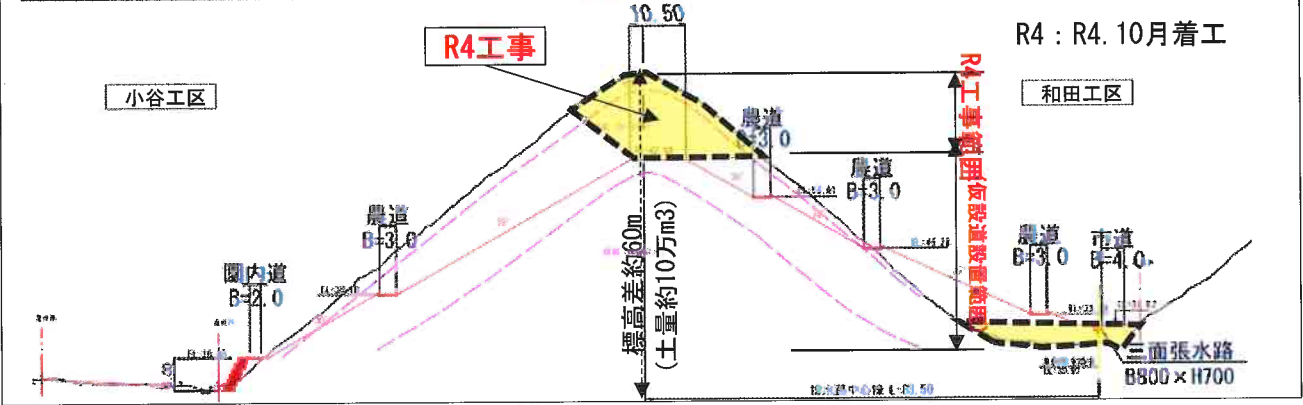


(白浦工区)

R3 : R4/9月末完成
R4 : R4/10月着工予定

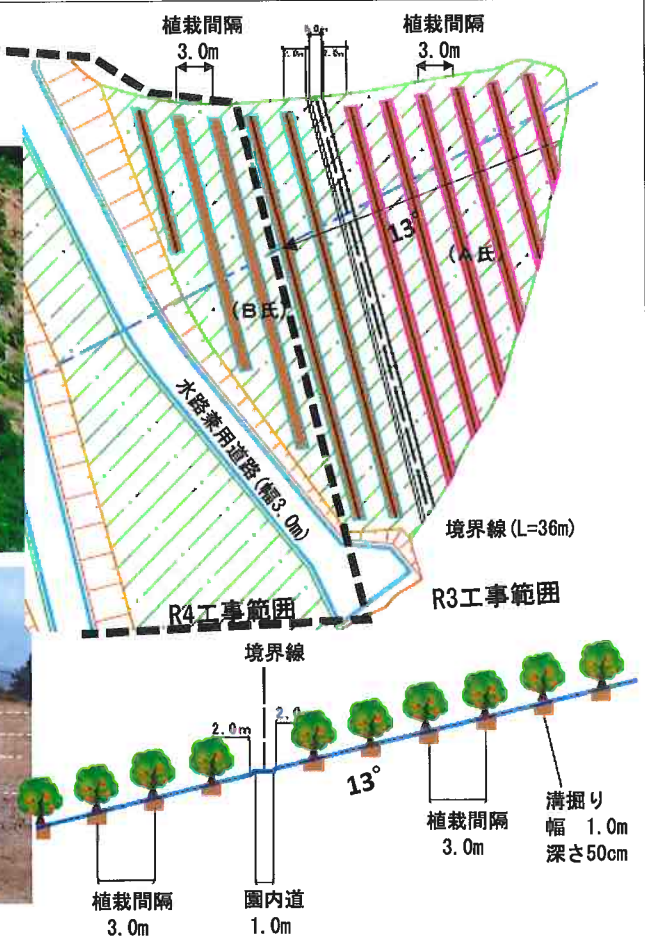
(法花津工区)

R4 : R4. 10月着工



営農計画

(白浦工区)
A工区(R3工事完成 最上部)



※作付品種や本数は、営農支援班・担い手農家で検討中

再編復旧「立間地区」

概要

【地区概要】

園地の緩傾斜化と排水機能を備えた農道を整備し、担い手に農地を集積するほか、高収益が見込める優良中晩柑類を導入することで、生産性と防災面に優れた生産拠点の確保を図り、産地力を強化する。

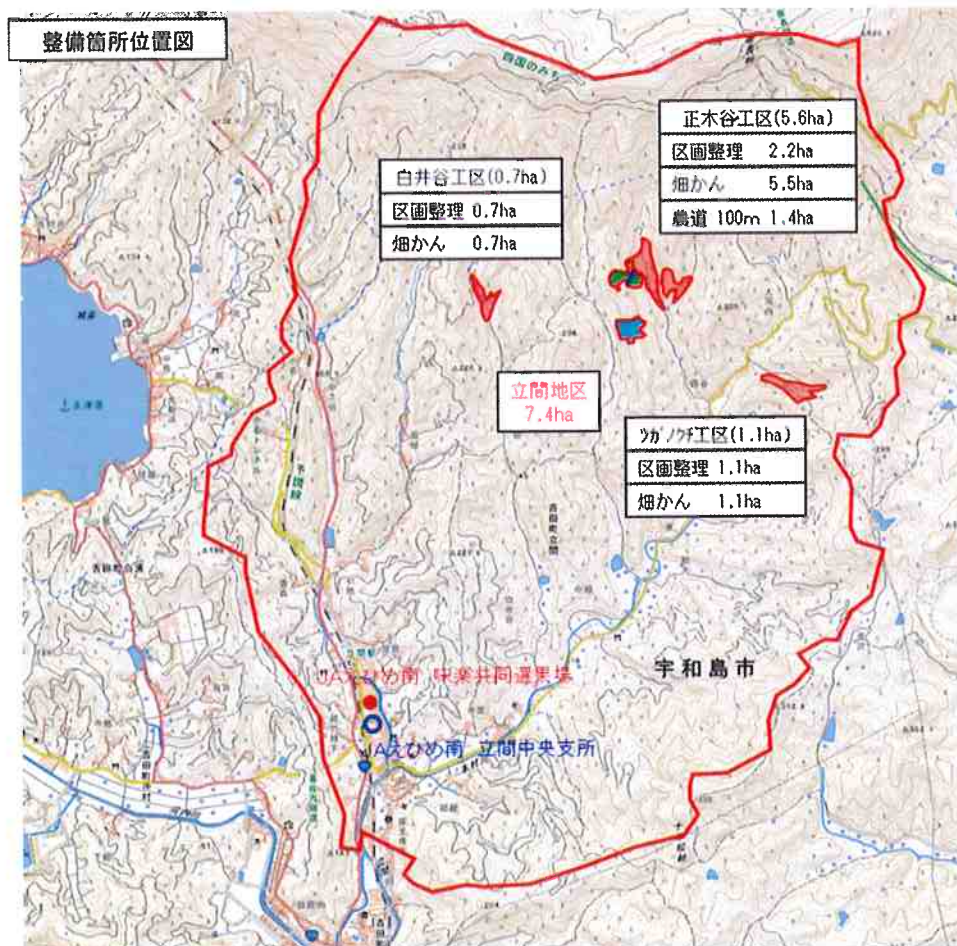


【事業概要】

- ・県事業名 畑地帯総合整備事業(担い手育成型)
- ・事業費 660 百万円
- ・受益面積 7.4 ha (白井谷工区 : 0.7 ha、正木谷工区 : 5.6 ha、ツガノグチ工区 : 1.1 ha)
- ・工期 令和4年度 ~ 令和8年度 (予定)
- ・主要工事
 - 区画整理 4.0 ha
(白井谷工区 : 0.7 ha、正木谷工区 : 2.2 ha、ツガノグチ工区 : 1.1 ha)
 - 農道整備 0.1km
(白井谷工区 : - km、正木谷工区 : 0.1km、ツガノグチ工区 : - km)
 - 用水施設整備 7.3ha
(白井谷工区 : 0.7 ha、正木谷工区 : 5.5 ha、ツガノグチ工区 : 1.1 ha)

・スケジュール

R3	R4	R5	R6	R7	R8
計画策定	畑総事業(畑地帯総合整備事業)				
	測量設計	区画整理工事			換地処分



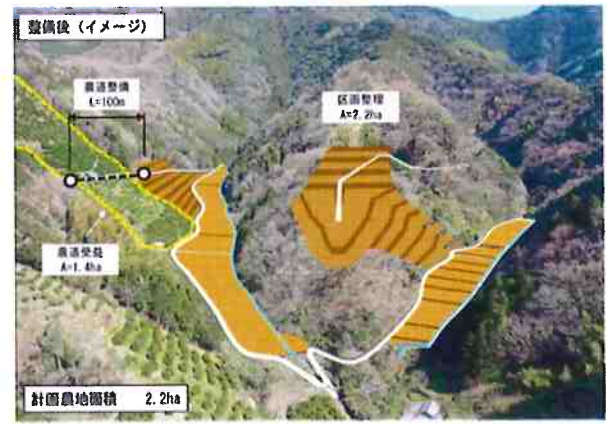
整備構想図

(白井谷工区)

(正木谷工区)

※R4 ドローン測量、詳細設計

※R4 ドローン測量、詳細設計



整備構想図

(ツガノグチ工区)

※R4 ドローン測量、詳細設計



JAえひめ南のかんきつ収穫等における労働力確保対策について(R4年度)

検 討 部 会	JAえひめ南労働力確保対策プロジェクト (R2.7.2 設立)
(1) 県外受入	<input type="radio"/> 新型コロナウイルスの感染状況に応じて対応を検討 【収穫作業】 <ul style="list-style-type: none"> ・ JAでの対応は新型コロナウイルス感染の状況次第 ・ 農家個々では、従来通り対応する可能性あり 【選果作業】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 共選では募集していない [例年、近隣(県内)で確保している]
(2) 県内受入	<input type="radio"/> 受入れは県内全域 ※農家への周知徹底(メディアやイベント等)を図る。 【アルバイト】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月8日、9日 個別で農家説明(12人) ・ 短期(1週間以内)は、人材派遣会社4社(R3:2社)に依頼 ・ 必要に応じてJAのOBや管内農閑期の生産者へ呼びかけ 【有償ボランティア】 <ul style="list-style-type: none"> ・ お手伝いプロジェクト(農家個別対応) ・ 1泊2日や平日も実施可 ・ 9月28日 一般説明会(松山市 学生ほか16名) ・ 10月15日 収穫研修会(予定) [R3実績]参加者:延べ506人 [R2実績]参加者:延べ671人
(3) 送迎の有無	<input type="radio"/> 実施しない。
(4) 宿泊施設	<input type="radio"/> 共同施設は制限付きで使用する(みなみかぜ) ・ 短期滞在者を対象(※感染対策期は中止) R3利用実績:11月延べ153人、12月延べ150人
(5) 予算対応	<input type="radio"/> 【国事業】 なし <input type="radio"/> 【県単事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 簡易トイレを設置(新規3基を導入) R2実績:5基、R3実績:5基 <input type="radio"/> 【市単事業】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 県単(簡易トイレ設置)の継ぎ足し1/3
(6) 確保状況	<input type="radio"/> R4目標 延べ1,000人 <input type="radio"/> [R3実績]…延べ754人 <ul style="list-style-type: none"> ・ アルバイター:延べ248人 ・ 有償ボランティア:延べ506人 <input type="radio"/> [R2実績]…延べ918人 <ul style="list-style-type: none"> ・ アルバイター:延べ247人 ・ 有償ボランティア:延べ671人

早期成園化に向けた大苗育苗や新技術(根域制限栽培実証圃)の概要

1 大苗育苗

工事期間から改植後の数年間は無収穫期間となるが、大苗を育成し移植することで無収穫期間を短縮できる。

玉津地区では、南柑 20 号等 1,600 本のポット育苗に取り組んでおり、地域農業育成室は芽かきや防草対策等技術指導を行っている(写真 1)。また、JAえひめ南は、地元業者に 2 年生苗 3,000 本委託し供給体制を構築したところ。



写真1 ポット育苗

2 根域制限栽培

根域制限とは、防根シートと、ブロックで形成した枠の中に培土を盛り土して木を植え付け、根域分布を制限するとともに、マルドリ方式(マルチング+点滴かん水同時施肥)により水と施肥量をコントロールしながら高品質安定生産を目指す栽培方法(※佐賀県果樹試験場開発)。

本実証圃場では、環境モニタリング装置を設置し、早期成園化実証圃地の技術開発・実証に必要な気温、地温等の環境データを測定している(写真 2)。

(1) 実証圃場の概要

○設備

園地造成(防根シート、ブロック、盛り土(培土)、排水設備等)

点滴かん水施設(制御小屋、マルドリ設備(液肥混入器含む))

事業費: 12,336,170 円(税込)

(国補助成金 10,000,000 円、令和元年度果樹生産性向上モデル確立推進事業)

○実証内容

品種: 南柑 20 号(カラタチ台、2 年生、192 本、令和 2 年 3 月定植)

面積: 1,447 m²(植栽間隔 1.5m×1.5m、作業通路 2m)

目標: 労働生産性の向上(単位当たり生産量に対する労働時間の短縮: 10%以上)

環境モニタリング装置:

気温、湿度、地温、土壌水分、降水量等を測定。スマホ等でリアルタイム閲覧可能。

(2) 期待される効果



写真2 根域制限栽培
(令和 4 年 4 月)

① 果実品質の向上(水分コントロール)

② 作業効率化(直線的な栽植等)

③ 早期成園化(液肥コントロール)

④ 所得の向上(正品率向上)

※佐賀県農業試験場における比較データ

(根域制限のみ)

・秀品率: 慣行の約 3 倍

・作業時間: 約 25%減

・定植 5 年後の収量: 通常 1 t/10a→5 t/10a

・農業所得: 約 3 倍

大苗育苗取組状況

・玉津柑橘倶楽部



R 4. 6 (緑化進む)

・J A委託業者



R 4. 8 (ハウス内での大苗育苗)



R 4. 5 (植栽2か月後)



大苗のポット状況